

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

第2期宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

石川県羽咋郡宝達志水町

### 3 地域再生計画の区域

石川県羽咋郡宝達志水町の全域

### 4 地域再生計画の目標

本町では、人口減少が継続的に進行している。本町の総人口は、国勢調査結果をみると、1980（昭和55年）以降は、1985（昭和60）年に若干増加したものの、その後は一貫して人口減少となっている。総人口の推移は、1980（昭和55）年には17,115人だったが、2000（平成12）年では15,891人と1,224人（▲7.2%）減少し、その後も2015（平成27）年には13,174人と2,717人（▲17.1%）減少と、この35年間で総人口は3,941人（▲23.0%）減少している。本町では2016（平成28）年2月に、第1期となる「宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「まち」「ひと」「しごと」の充実を図ってきたものの、第1期の総合戦略の策定後においても、人口が減少し続け、住民基本台帳によると、2019年では12,998人となっている。

これを、年齢3区分別にみると、15歳未満の人口（年少人口）は、1980（昭和55）年の3,949人から、2015（平成27）年には1,426人へと、この35年間で2,523人（▲63.9%）減少し半数以下となっている。また、15歳から64歳の人口（生産年齢人口）では1985（昭和55）年の10,961人から、2015（平成27）年の7,059人へと、この35年間で3,902人（▲35.6%）の減少と約3分の2となっている。一方で、65歳以上の人口（老年人口）は1980（昭和55）年の2,205人から、2015（平成27）年では4,689人へと、この35年間で2,484人（112.7%）の増加と2倍以上となっている。

人口の自然動態について、1995（平成7）年度以降、死亡数が出生数を上回り、その差は年々大きくなり、人口減少の大きな要因になっている。2018（平成30）年の自然減は▲137人となっている。また本町の合計特殊出生率は、人口動態保健所・市区町村別統計（平成20～平成24年）では1.36となっている。社会動態では、一貫して転出者数が転入者数を上回る結果となっており、2018（平成30）年の社会減は▲67人となっている。

本町の将来人口について、国立社会保障人口問題研究所の推計によれば2040年には7,667人となる見込みである。

前述のとおり、本町では総人口の継続的な減少が見られ、特に年少人口と、生産年齢人口のうち若年層の減少が続いている一方で、老年人口が急激に増加している。生産年齢人口の減少は町の税収にマイナス効果となり、特に若年層の減少に歯止めをかける必要がある。また、高齢化率の高まりは税収の減少とともに要介護者の増加、要介護度の上昇等による医療費、介護給付費の増加が見込まれ、行財政を取り巻く環境が悪化することが懸念される。このため高齢者が持つ技能を活かして地域内で活躍し、多世代交流が促進され、生きがいを持って社会参加を続けることで、健康寿命の伸長が図れる環境づくりを推進し、平均寿命との差を縮小することも課題となっている。

これらの課題に対応するため、今後もますます「まち」「ひと」「しごと」全ての充実が必要であり、「第2期宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、国の方針を踏まえ「まち」「ひと」「しごと」の充実を図り、また、2020（令和2）年3月に発出する町の最上位計画である「第2次宝達志水町総合計画と連動することとしている。この総合戦略に基づき、本計画においても、次の基本目標を掲げ、未来を担う若者が育ち、みんなが誇れるまちづくりを町民と行政が一丸となって推進していく。

- ・基本目標1 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする
- ・基本目標2 本町とのつながりを築き、本町への新しいひとの流れをつくる
- ・基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ・基本目標4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

## 【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (R6年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	企業誘致件数	0件	1件	基本目標1
イ	社会増減数(転入者-転出者)	△89人	△30人	基本目標2
ウ	合計特殊出生率	1.37	1.61	基本目標3
エ	住みやすいと感じる人の割合	35%	43%	基本目標4

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例(内閣府)：【A2007】

#### ① 事業の名称

第2期宝達志水町まち・ひと・しごと創生事業

- ア 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする事業
- イ 本町とのつながりを築き、本町への新しいひとの流れをつくる事業
- ウ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる事業
- エ ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる事業

#### ② 事業の内容

- ア 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする事業

本町への移住・定住を促進するためには、地域資源を最大限に活用して、地域産業の振興による安定した就労の機会を創出することが重要となることから、若者等の流出を防ぐため、起業支援などによる若者自身による働く場の創出に向けた支援を推進する事業。

#### 【具体的な事業】

- ・雇用創出のための企業誘致、働く場所の確保
- 移住者や町内在住者の雇用を確保するため、企業の誘致や創業支援を

含めた雇用の拡大を図る。

- ・観光産業の振興

観光情報発信の強化と積極的なプロモーション、DMOによる「稼ぐ」観光の推進などに取り組む。

- ・農林水産業の振興

第1次産業の担い手確保・育成、ブランド化の推進を図る。 等

## イ 本町とのつながりを築き、本町への新しいひとの流れをつくる事業

本町では、単身者や若者世帯の住宅が不足しており、本町で生まれ育ち、町の将来を担っていく若者世帯や移住者が暮らせる住宅が少ないという意見もあることから、居住環境の整備に取り組むとともに、地域資源を活用した交流拠点の整備、各種イベントの開催等を通じて関係人口の拡大を図る。また、若者の大学等進学時や就職時の転出による社会減の抑制を図るため、大学等卒業後の帰郷の推進に取り組む。

### 【具体的な事業】

- ・転入の促進、転出の抑制

居住環境の整備、定住支援、総合的な移住情報の発信に取り組む。

- ・修学・就業支援

地域産業の担い手となる学生への奨学金返還支援により、地元への定着を図る。

- ・関係人口の拡大

ふるさと会との交流、イベント開催等による関係人口の拡大を図る。 等

## ウ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる事業

子育て環境を充実するため、保育ニーズに対応したサービス体制の強化のほか、不安や悩みを解消するための相談体制の強化、妊娠・出産から子どもの成長過程にあわせた切れ目のない支援により、若い世代が安心して子どもを産み育てていくことができるまちづくりを進め、次世代の「ひと」づくりを支援する。

### 【具体的な事業】

- ・妊娠・出産支援

不妊治療への支援、妊娠・出産に対する支援に取り組む。

- ・子育て支援

未就学児等の保育・教育の質の向上、子育て家庭の経済的負担の軽減を図る。

- ・出会い・婚活支援

独身男女の出会いの場を提供し、結婚奨励による少子化対策を図る。 等

## エ ヒトが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる事業

高齢者が増加しても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、個人においては健康づくりに取り組み、地域では高齢者もいきいきと暮らせるよう支え合いの認識を醸成していく。また、若者から高齢者までライフスタイルに応じた生活環境を整え、住んでみたくなる、住み続けられるまちをつくる。

### 【具体的な事業】

- ・健康長寿社会の形成

生活習慣病予防事業の充実、介護予防の充実、地域包括支援体制の構築などに取り組む。

- ・公共交通網の構築

地域の暮らしに不可欠な地域公共サービスの確保、充実を図る。

- ・地域を守るコミュニティの活性化

集落間の連携強化を図るとともに、集落機能の維持確保のために必要な支援を行い、持続的に地域の暮らしを守る。 等

※なお、詳細は第2期宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

### ③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

### ④ 寄附の金額の目安

1,070,000千円（R2年度～R6年度累計）

### ⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度2月に、外部有識者等を含む検証機関として、「宝達志水町まち・

ひと・しごと創生総合戦略推進会議」を継続的に開催し、基本目標及び具体的な施策に係るK P Iの達成度を検証する。その他必要に応じて町民の意見聴取等を行い、総合戦略の見直し等を行う。検証後速やかに宝達志水町公式WEBサイト上で公表する。

**⑥ 事業実施期間**

地域再生計画の認定の日からR 7年3月31日まで

**6 計画期間**

地域再生計画の認定の日からR 7年3月31日まで